



一般社団法人
日本善行会

〒100-0006

東京都千代田区有楽町

2-10-1 東京交通会館内

TEL (03) 3212-6996

FAX (03) 3212-6998

URL: http://www.zenkoukai.or.jp

メール: info@zenkoukai.or.jp

毎月1日発行

編集発行人 相澤 克也

善行は、社会を
照らすともしび。

よう生きた

死の宣告から生還して五十二年

日本善行会理事・福岡県福岡支部 支部長 鳥巢正行



死の宣告から生還して五十二年が過ぎた。朧気な記憶を辿って、当時の

状況を振り返って見た。

医師から死の宣告を告げ

られたのは、私が二十九

歳・妻が二十四歳・長女

が一歳六ヶ月のときだっ

た、昭和四十二年九月五

日、病室で医師から「鳥

巢さん最善の治療はしま

した。出血が止まりませ

ん。薬は気休めで効果は

ありません。十二日が峠

です」と死の宣告を受け

た。病氣入院の発端は、

昭和三十八年四月福岡県

警察学校卒業後、東福岡

警察署配属となった。署

では、留置場・強行犯刑

事・知能犯刑事として、

看守・捜査・死体見分等

に従事した。四十一年四

月福岡県警察本部刑事部

刑事総務課に転勤、指名手配被疑者の追跡捜査に従事する傍ら、幹部昇任試験に向けて昼夜受験勉強に励んだ。四十二年四月捜査の途中、食堂で突

如倒れ意識を失った。肝

炎の疑い、上司の指示で

自宅養生に専念、昇任試

験直前に無断で出勤し

た。上司から「試験と命

どっちが大事か」と叱咤

され受験を諦めた。七月

五日課内で勤務中、体が

だるく階段の上り下りに

汗をかくので、県庁内の

医務室で受診した。異状

なしに疑問を抱き「浜の

町病院」に直行して受診

した。医師から「顔に症

状が出ている。帰ったら

いかん。すぐ入院しなさい」と薦められ、即、六

人部屋に入院した。病

名は、「急性肝炎」だっ

た。八月十三日盆帰りの

ため、院内で散髪中椅子

から転げ落ち意識を失っ

た。病室に戻る途中廊下

で二回仰向けに転倒し後

頭部を強打、病室の寝

台で、尿瓶に尿を採集中、寝台から床に転げ落ちた。タンカで運ばれる途中、医師が誰かに「家族・職場に連絡して」と

指示する声は聞こえたが

意識を失った。気付いた

時は個室に移され、左手

に点滴、右手に輸血、尿

漏れ防止の措置が施され

ていた。病状は日増し

に悪化、黄疸が原因で、

目・シャツは黄色に染ま

り、食事の代わりに「か

き水」を食べた。黄疸指

数は二六〇と記憶してい

る。この状態が十二月ま

で続き、この間、面会禁

止、薬の代用として、毎

日、実父と義父が、有明

海・川で取った「シジミ」を、妻が煎じたエキ

スを薬の替わりとして常

用した。九月十二日峠は

越えたが、大便は出血で

黒く輸血が命の綱だっ

た。「生と死」の一進一退

が続き何度か死を覚悟し

た。夢の中にいろいろな

現象が駆け巡り目覚めて

涙した。翌年三月退院し

支部だより

大分県大分支部

スーパーボランティア

尾畠春夫さん

変わらぬ奉仕の心で奔走

大分支部の名誉会員である尾畠春夫さんは山口県で行方不明になった二歳児を奇跡的に発見、救助したことで一躍「時の人」となった。その後、マスコミでは東京で講演後、尾畠さんはリヤカーを引いて徒歩で帰るとい

構え、交通事故が発生したら一大事と思い途中で諦めることにした。尾畠さんは災害時だけでなく、様々なボランティア活動に精通している。環境ボランティアとして別府湾に流れ着くペットボトル等の回収活動を行って話題になっている。再度災害ボランティアを始めたのは、七月七日、大分県日田市天ヶ瀬町の旅館が軒並み甚大な被害にあつて、復旧作業が難航している中、尾畠さんは迅速に対応して天瀬町に向かった。旅館の従業員等が家具の運び出しをリレー形式で行っていたの

で参加。尾畠さんの登場で、大変な仕事に笑顔が溢れ復旧作業をしていた方々に元氣・やる気を喚起させ大変喜ばれ感謝されたそうである。先日、尾畠さんに電話した所、今から大分川の上流に行くタイミングでした。豪雨で川に流され行方不明になった人を捜しに行くとのこと。単車で連日被災地に通り、兩岸に葦の茂った場所をかき分けて捜索している。尾畑さんはどこまで凄い人なのか！感銘するばかりの活動内容。「いつも変わらぬ奉仕の心」で奔走する尾畠さんは大分県民、し



静岡県浜松支部

支部では、会員の方々が不用品なタオルを集め手作りの雑巾を縫う活動をしております。年二回の恒例行事として介

人吉市社会福祉協議会にも送らせていただきました。被災地の一日も早い復興を心より願っております。



熊本県人吉市水害の際送りました
2020年7月

新宿支部

今年も『善行会杯少年サッカー大会』が始まりました

支部では新宿区少年サッカー連盟と協力して毎年秋に小学一～二年生の部を善行会杯として十九回目の開催を致します。各イベントが新型コロナウイルス感染防止による自粛で開催になるまで困難ではありましたが、握手やタッチは禁止で九月から十二月中旬まで。決勝戦は新宿区内グ



ランドで開催します。一方ジュニアユース新人戦大会(中学生)が中断していましたが、決勝戦は九月二十七日に行われ新宿支部長から挨拶と表彰状が渡されました。グラウンドには、日本善行会の旗が飾られました。

※本会は善行精神の普及と善行の実践を通して明るい住みよい社会環境づくりにつとめております。会員会費と個人・企業・地方公共団体からの助成金により運営されております。広く会員を募集しております。